

報道関係各位

学校法人五島育英会 東京都市大学

東京都市大学 新棟（名称：新6号館）の竣工式を行いました

東京都市大学（東京都世田谷区 学長：三木千壽）では、4月24日（火）に、世田谷キャンパス・新棟（名称：新6号館）の竣工式を行いました。

この新棟は、変化の激しい時代への対応と、建替えによって生じる環境負荷の抑制を両立させるため、建物内部の構成をニーズに合わせて随時変更可能にするとともに、研究室を広くワンルーム化して共用可能にすることで、研究者間のシナジー創出を環境面から後押しする工夫をしています。

本事業は、本学の創立90周年（2019年）、100周年（2029年）に向けた中長期計画「東京都市大学アクションプラン 2030」の一環であり、今後行う研究棟・実験棟の改修・改築にも、そのフレキシビリティの高さを生かして貢献する予定です。

東京都市大学 新棟（名称：新6号館）の概要は、別紙の通りです。



当日の竣工式の写真

当日の竣工式の写真

～お問い合わせ先～
東京都市大学 企画・広報室
Tel : 03-5707-0104
E-mail: toshidai-pr@tcu.ac.jp

東京都市大学 新棟（名称：新6号館）について

- 建築主： 学校法人五島育英会（東京都渋谷区 理事長：安達 功）
- 設計・監理： 学校法人五島育英会、株式会社東急設計コンサルタント、
東京都市大学 堀場研究室
- 施工： 東急建設株式会社
- 建物構造： 鉄骨造、地上4階建
- 敷地面積： 4,401 m²、延床面積：7,909.16 m²
- コンセプト： 効率化、機能維持、融通性（フレキシビリティ、スケルトン&インフィ
ル）、オープン化、セキュリティ・セーフティ（オープン化対応）、コス
トマネジメント
- 特徴：
 - 変化の激しい科学技術の先端領域に対応する高い柔軟性（フレキシビリティ）を確保
 - 研究者間のシナジー創出を目的とした研究室・実験室の大空間化を実現
 - 中央部メカニカルシャフトと外壁側メカニカルバルコニーの設置により、設備の新設・
変更・更新を容易化
 - 13m以上の大スパンを実現するため、中央部メカニカルシャフトを耐震装置に利用
 - 二重床による設備改修（給排水、電気）の容易化（下階への影響低減）
 - ガラス間仕切りの導入による研究のオープン化（来訪者への成果展示）
- 建物構造： 鉄骨造、地上4階建
 - 1F 総合研究所 / 教室（約200~350名収容）
 - 2F 自然科学科実験室・研究室 / 物理・化学・地学・生物実験室
 - 3F 機械系製図室・実験室 / 自然科学科・エネルギー化学科共同実験室
 - 4F エネルギー化学科実験室・研究室

